開校69周年　谷原小の合言葉 ～やわらっ子 未来につなぐ 笑顔のバトン～

谷原小だより 11月号

発行　令和８年10月30日
練馬区立谷原小学校
校長　伊藤 雄一

練馬区立谷原小学校の
学校ホームページ
携帯サイトはこちらから↗

「のど自慢」と運動会のやわらっ子

校長　伊藤　雄一

「のど自慢」をよく見ることがあります。毎週日曜日のお昼に全国に放映されているNHKの「のど自慢」は、1946（昭和21）年にラジオ放送でスタートしてから、今年で80年続く屈指の長寿番組です。ラジオ時代から数えると、日本のテレビ放送そのものの歴史（1953年開始）よりも長く続いている、まさに国民的番組です。

私自身、子供の頃から日曜日にお茶の間に流れていて、ときどき見る程度でしたが、最近、この番組の魅力をあらためて感じています。合格、不合格、どの地方会場か、ゲスト審査員の歌の盛り上がり、何より、出演される一般の方々の人柄や人間ドラマの一端など番組ならではの魅力が詰まっています。この番組の最も注目される瞬間は、歌い終わりです。出演者が、歌い終わって鐘3つ「合格」、2つ「おしい、不合格」、1つ「厳しい不合格（一部、お笑いの要素がありますが、最近、鐘1つはレアです）」の結果が出ます。その後、司会やゲストの方と出演者の短いやり取りがあります。

さて、先日の運動会です。赤白の勝敗結果が出るたびに、「大喜び」と「残念」が対照的でした。いつの運動会でも、校長としては「最後まで接戦で拮抗してほしい」との気持ちがあり、それぞれの表情に注目しながら見守りました。

結果は赤組の優勝。昨年度まで白組の優勝が続いていて、「ずっと白組が優勝していてもう優勝できないかもしれないと思っていた」と感慨深く喜ぶ赤組の児童がいました。一方、運動会の帰り際に「校長先生、白組負けちゃったよ。」と残念な声を届けてくれながらも、どこか充実感に満ち溢れたたくましさが表情から伝わる児童もいました。

私は、のど自慢で、不合格となりながらも、参加する思いを熱く伝える場面と合格に歓喜するところ、それでも最後は全員が満面の笑顔で終わる光景が、運動会のやわらっ子たちの姿とが重なっていると感じました。

保護者の皆様には、土曜日の雨で急遽、体育館での練習公開の運営に協力し、整然と入れ替わりをしてくださったこと、水曜日の運動会に平日にもかかわらず保護者の方、地域の皆様に大勢お越しいただき、温かい拍手と熱い声援を送ってくださったことに感謝申し上げます。やわらっ子の会の役員やスタッフの皆様、ボランティアの皆様に運営や後片付けのご支援をいただいたことは大変心強かったです。

日々の教育活動の積み重ねが生むやわらっ子一人ひとりのドラマは毎日展開しています。順調と見える面も、不調と見える面もすべてあわせての学びです。2学期後半もどうぞよろしくお願いいたします。

＊＊



第５回　谷原地下道と目白通り

首都圏と関越方面を結ぶ大動脈として、関越自動車道の最初の区間（練馬IC～川越IC）が開通したのは1971年（昭和46年）のことです。この練馬ICと都心をつなぐアクセス道路として整備されたのが、都市計画道路放射７号線、通称「目白通り」です。「谷原」という地名は、かつて「谷原村（やわらむら）」と呼ばれていました。「やわら」という名は、「谷あいの排水が不十分な湿地」や「アシやオギが繁茂する泥湿地」を意味する言葉が由来といわれています（練馬区公式ホームページより）。現在の谷原交差点付近は、石神井川が南から東へと大きく蛇行する場所にあたります。目白通りの下りで高速道路へのアクセスを円滑にするために造られた「みのわ陸橋」の「みのわ」も、古い地名である「箕輪（水曲＝川の水が迂回してカーブする場所）」に由来しており、大雨が降ると川の水が溢れやすい、ぬかるんだ低地であったことを物語っています。校名の由来でもある谷原小周辺は、かつては低い土地でしたが、関越自動車道の整備にともない短い期間で大きく変化していきました。現在の街並みからは、かつてここが低地であり、湿地であったとは想像もつかないほどの変貌です。

谷原小の開校当時は、まだ高速道路もなく道幅も狭かったため交通量は現在より少なく、児童は旧正門（南門）前の横断歩道を使って登校していました。しかし、1971年12月の関越自動車道開通に先立ち、安全対策の一環として同年３月に先行して「谷原地下道」が完成しました。開校30周年記念誌に寄せられた第10代校長・西原恒雄先生の巻頭言には、次のように記されています。「毎日、ラジオの交通情報では、交通渋滞の名所として“谷原”の名が報じられる。学校の南側を東西に走る目白通りの交差点は、すさまじい。それ故、登下校の児童のために、目白通りを横断する立派な地下道がつくられた。（中略）用地を確保し、都にははたらきかけ、これが実現を見たのは、本校の設立協賛会長であった長命寺貫主　林亮海先生（高野台在住）のお働きによる。」さらに当時の卒業生にお話を伺うと、谷原小PTA初代会長の横山繁雄様（谷原在住）のご尽力もあり、谷原と高野台それぞれの地元の声を丁寧に行政へ届けたことで実現したのが、この谷原地下道でした。その後、1987年（昭和62年）には現在の明るい地下道へと改装されました。改装される以前は薄暗くゴミの放置や落書きなどが目立ち、児童が通る際の安全が心配されたため、安心して通行できる地下道への改修を願うPTAの皆様の要望が実を結んだものです。その様子は当時の新聞にも大きく報じられました。2016年（平成28年）には防犯カメラが設置され安全がさらに確保されています。

最近では、人気ロックバンド「フレデリック」さんのMV（ミュージックビデオ）のロケ地として使われたことで広く知られるようになり、さらにそのMVをオマージュしたCM（バナナマンさんや生田絵梨花さんが出演）にも登場したことで一層有名になりました。目白通りをはさんで谷原と高野台を結ぶこの谷原地下道は、今も「やわらっ子」たちの毎日に欠かせない、地域と学校をつなぐ大切な場所となっています。